

国内未発生 of 植物病虫害が侵入した場合の経済的影響の予測・評価及び
的確な管理措置の実施のために必要な要因の分析

研究期間	平成 22 年度～平成 24 年度
課題番号	2210
研究実施機関	(独)農業・食品産業技術総合研究機構(中央農業総合研究センター) (独)農業環境技術研究所
研究概要	近年、貿易拡大、気候変動などにより、未確認病虫害の侵入可能性が高まっています。万一侵入した場合に早急に検疫措置を講じられるよう、病虫害危険度評価の手法を高度化する必要があります。 このため、本研究では、その経済的影響の評価手法の開発、SPS 協定(衛生植物検疫措置の適用に関する協定)で認められている「適切な保護の水準」の設定根拠として、侵入の許容度やまん延した場合の要防除水準設定のための基礎理論を検討しました。
研究成果の概要	我が国の植物検疫制度と状況に合わせた、かつ、植物検疫の国際基準で定める PRA(病虫害リスクアナリシス)の枠組みに則し、PRA の評価項目である「入り込み」「定着・まん延」「経済的重要性」の評価要素や保護水準決定の考え方を含めた PRA の手順を策定しました。 また、未侵入の病虫害が我が国での潜在分布好適度を推定するためのアプリケーションを開発しました。

(注)研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載